

謹賀新年

今月号の表紙写真は、千代田大橋
から撮影した日の出の様子です。

CONTENTS

- * 平成29年の新春を迎えて
- * 平成29年の年頭にあたり
- * 平成28年産豆類生産状況
- * 営農計画書提出期限について
- * コンプライアンス研修会開催
- * 部会長会視察研修報告
- * 21NEWS アラカルト
- * シリーズ 協同組合と報徳
- * 生産資材課より
- * 金融共済課より
- * 畜産部通信
- * 未来人
- * 今月の 1 枚
- * 理事会の動き
- * 編集後記

2017.

1
JANUARY
No.085



平成29年の新春を迎えて

十勝池田町農業協同組合

代表理事組合長 鈴木雅博

平成29年の新年を迎え、組合員の皆様はじめご家族に謹んで新春のお慶びを申し上げます。また、日頃より農協事業にご理解とご協力を戴き厚くお礼申し上げます。

昨年は干支のなかでも「申酉（さるとり）騒ぐ」と言われる様に数年に一度の出来事が国内外で数多くありました。政治・経済・農政にも波紋が広がる年でありました。オリンピック、日本でのサミット、参議院選挙も都知事選挙などがあり、特に米国大統領選挙におけるトランプ新大統領の誕生は、政治や経済にどのような事が起こるのか未知数な状況であります。

国内では私達の地域農業にとっても多大な影響が出るような農業改革、農協改革が議論された年でした。新自由主義を信奉する学者や経済人による「競争をさせれば成長産

業になる」と考える規制改革推進会議からの提言であります。農協組織改革も「規制改革の抵抗団体」として組織の弱体化から始まっています。たとえば指定生乳团体制度の見直しは、独自の動きをする飲用乳販売メーカーにより大規模酪農家や集荷に便利な地域の酪農家が優遇される事になります。それ以外の小規模家族経営や集荷に不便な地域の酪農家は「飲用乳の需要を先食い」され、低価格の加工乳販売のウエートが増える事態になります。これは、酪農家の中には地域や経営規模による格差を発生させます。協同組合組織は、生乳問題以外にも生産資材、農畜産物の購買、販売事業にも相互扶助の精神で大規模経営や家族経営、そして条件不利地域にも公平な制度を話し合い築いてきました。農業協同組合法が制定され今年で70年を迎えます。農協の前身は産業組合であります。1906年に信用事業を取り入れ購買、販売を含む総合事業となりました。1961年北海道独自の組合員勘定制度を創設し本道農業は飛躍的に発展してまいりました。農協組織が自ら改革する事は当然必要ですが、農協の存在意義と制度の正しい理解が改めて大切であります。私達の地域農業は、国民の理解により農業予算を導入し生産性をあげる努力をしています。地域の皆さんや消費者の理解と応援が必要な産業であり、昨年のように悪天候や台風災害のかたで食料を生産しているのが手厚く保護されているのかのような誤解を招かぬ為にも、地域の皆さんや消費者の皆さんへの活動や貢献として、収穫感謝祭での「餅つき」、青年

部による子供や父兄を対象とした食育事業。Aコープでのもぎたて市、加工サークルの手づくり品、ボランティア活動、など日頃の活動が大切なことがあります。

新自由主義思想に対峙し、TPPをはじめ農業改革に危機感を訴えてこられた、鈴木宣弘東京大学教授が指摘した

「今だけ、金だけ、自分だけ」という考えは企業だけではなく農業者にも浸透しつつあります。生乳の生産調整や価格交渉を一丸となって行ってきたなか、農協脱退はせずに何時でも戻れる保険をかけながら、独自に手取りの良い飲用乳を売る人達も存在します。

自分一人の特別な利益を得ようと追求する欲望を協同組合は満たしてくれません。しかし、協同組合に個人の利益は無いかといえば、共同事業に参画し皆の利益、協同の利益に尽くすことで、自分の利益に還っていく組織であります。

池田町農業は、水害、災害を克服しながらの歴史であります。先人の努力、不变の魂を思い起こし、組合員皆様と一緒に農活動に取り組んでまいります。

今年も農協事業への積極的参加とご指導、ご協力をお願ひ申し上げます。本年が安心して暮らせる穏やかな年であり、実り多い年でありますように祈念申し上げ、年頭のご挨拶を熟考して頂ければ有難いと



平成29年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔 章

られていくところです。

皆様方には、「ご健勝にて輝かしい平成29年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大な尽力をされていることに対し、改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。

昨年の北海道農業は、春先からの天候不順、8月中旬から相次いで上陸・接近した4つの台風の影響により、河川の氾濫、農地の流出、関連施設の損壊、停電による生乳廃棄など、全道各地で甚大な農業被害が発生しました。

現在もその傷跡は依然として深く残つており、復旧・復興に向けた懸命な努力が続け

る組合員並びにJA役職員の皆様方には、「ご健勝にて輝かしい平成29年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大な尽力をされていることに対し、改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。

昨年の北海道農業は、春先からの天候不順、8月中旬から相次いで上陸・接近した4つの台風の影響により、河川の氾濫、農地の流出、関連施設の損壊、停電による生乳廃棄など、全道各地で甚大な農業被害が発生しました。

JAグループ北海道は、今後とも必要な農政運動や国民理解へ向けての情報発信、JA経営の基盤を強化し、組合

員の皆様の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万全な対応を図つて参ります。

また、全農改革を始めとする農協改革並びに指定生乳生産者団体制度のあり方を含めた農業競争力強化プログラムの取り纏め、次期米国大統領ドナルド・トランプ氏のTPP離脱・日米二国間交渉の表明など、我が国の農業・JAにとって先行き不透明感が増大する情勢変化があつた一年でした。

JAグループ北海道は、今後とも必要な農政運動や国民理解へ向けての情報発信、JA経営の基盤を強化し、組合

を背景に、国際的な食料の需給事情は常に不安定な要因を抱えており、我が国として、先を見据えた中で食料自給率の確保などによる食料の安全保障体制をいかに確立していくかが問われています。

さて、現在、JAグループ北海道は、第28回JA北海道大会のメインテーマである「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現に向けた決議事項に基づき、その着実な実践を図つていいといふのです。昨年はJAグループ北海道の実践状況について、全体共有を図るとともに実践への機運を高め、JAグループ内外に実践状況を発信すべく、JA北海道大会実践フォーラムを開催致しました。

引き続き、JAグループ北海道の英知を結集し、北海道550万人から信頼され、ともに歩んでいくJAグループ

北海道を目標して参ります。関係各位の特段なるご理解とご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

一方、農業情勢では、世界規模での異常気象の発生、人口増加、経済情勢の変化などを背景に、国際的な食料の需給事情は常に不安定な要因を抱えており、我が国として、

JAの基盤をさらに発展させ、後世に継承できるよう努力して参ります。

一説には、丁は、「安定する」という意味があり、酉は「果実などが成熟し実る状態」を表しているとのことであります。

今年は、この酉年にあやかり、天候に恵まれ実り多い安定した一年となりますよう、JAグループ北海道は、そ



平成28年産豆類生産状況

生育状況

表1 平成28年 池田町作況圃の生育経過
(上段28年、下段平年)

作物	出芽始	出芽期	開花始	開花期	成熟期
大豆	5/28	5/30	7/28	7/30	10/11
	5/30	6/2	7/21	7/23	10/6
小豆	6/1	6/4	7/31	8/2	9/20
	6/4	6/6	7/27	7/29	9/15
金時	6/10	6/12	—	—	—
	6/8	6/10	7/12	7/14	9/3
手亡	6/9	6/11	—	—	—
	6/6	6/8	7/22	7/24	9/14

平成28年産は播種時期の天候に恵まれ、作業は順調に進み、表1でもわかるように、出芽始、出芽期は平年並みか、やや早い生育経過となつておりますが、表4の積算降水量、表5の積算日照時間の通り、6月からの降雨と日照時間が

表2 平成28年 池田町作況圃の茎長(cm)及び着莢数(個数/m²) (上段28年、下段平年)

茎長	6月15日	7月1日	7月15日	8月1日	8月15日	着莢数	8月15日	9月1日	9月15日
大豆	5.8	12.1	39.0	66.1	72.5	大豆	238.6	484.5	485.8
	7.1	16.3	36.5	64.9	72.2		405.2	504.5	509.4
小豆	2.7	3.5	11.6	22.3	56.4	小豆	111.2	330.2	330.2
	2.9	4.4	10.3	24.6	41.8		113.2	272.3	297.2
金時	4.5	11.6	21.3	39.8	39.2	金時	91.8	125.3	110.2
	5.5	12.3	34.3	48.6	50.1		134.2	134.7	133.7
手亡	2.9	5.7	19.2	37.7	44.4	手亡	140.7	178.5	181.4
	4.2	8.1	31.5	46.9	50.0		161.2	204.2	213.0

極端に少ない中、湿害圃場が散見されるようになり、生育の停滞が見られる状況となりました。7月上旬には大豆、小豆に少し生育の回復は見られたものの、菜豆類は湿害の影響から回復に至らないまま、7月中旬以降は6月同様、日照時間が少なく、根腐病の発生も見られるようになり生育に大きな影響を受けました。大豆の開花始めて7日遅れ、大豆でも4日遅れとなり、8月中旬からの度重なる台風の上陸、9月も多雨、日照不足から、菜豆類での色流れ、芽粒の多発、小豆ではカビの発生等、収量、品質も大きく落ち込む年となりました。過去に冷害は経験しているものの、表3の通り、5月から9月までの積算気温は平年を上回っていることから、高温多雨の年であった結果となつております。

雑豆の需給状況

◇小豆類(表6、表7参照)

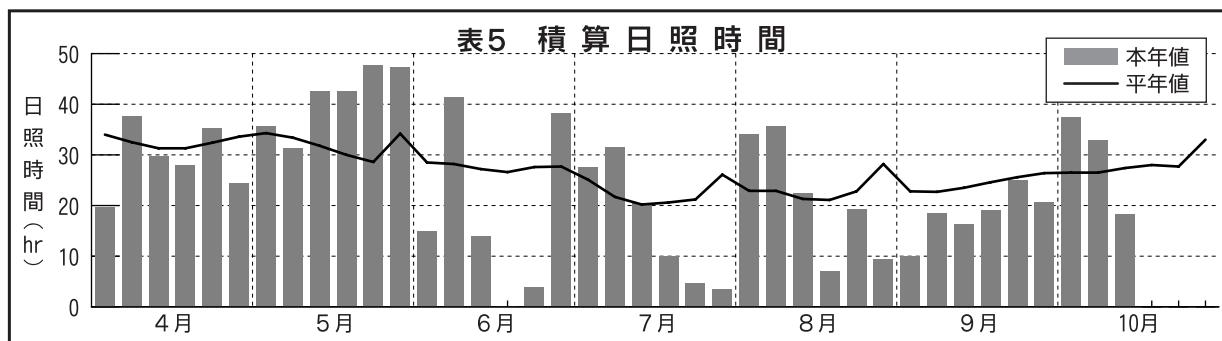
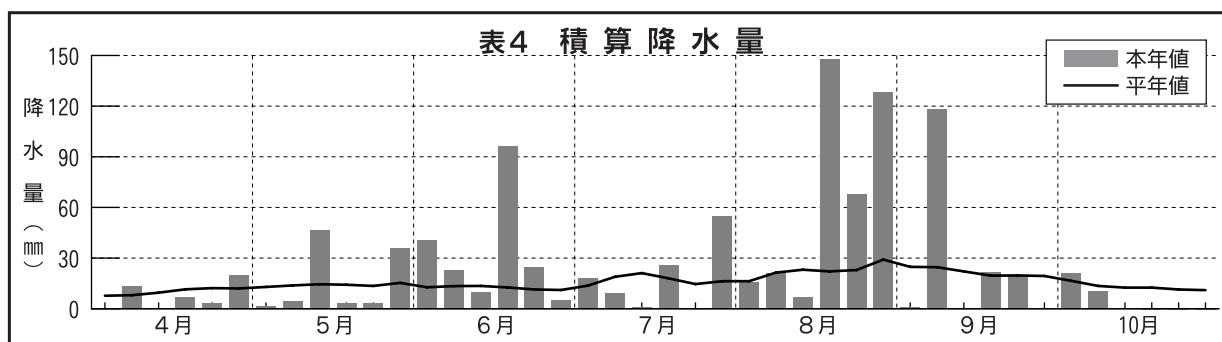
近年の指標を上回る作付けと、4年続いての豊作もあり、在庫が大幅に増加し、相場の低迷を招きましたが、28年の大幅な作付け減少と低単収により、次期繰越し大きく減少している状況です。多くのユーバーがエリモ小豆の安定供給を期待する中、きたろまんの作付けがエリモ小豆を上回るほどに増加し、需給のバランスを崩す一つの要因となつてゐると言う意見も多くあります。ユーザーの望む品種を定供給することで、需要の確

このような状況の中でも、JA十勝池田町の農産物を応援したいとの申し出を頂き、豆類の販売をして頂いている取引先があります。今年の供給数量は大変少ないですが、

表3 積算気温

項目	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	積算
本年	-39	167	386	403	549	671	501	133	2,510
平年	-56	141	308	411	536	595	464	133	2,314
差	17	26	78	-8	13	76	37	0	196

※ 積算は5月から9月の合計値

**表6 小豆需給推算**

(単位：俵)

年産	作付面積	单収	生産量	前年度繰越	商品化	期首供給量	年間消費量	次期繰越(見込)
26	26,300	4.57	1,201,700	699,100	1,136,700	1,835,800	864,900	970,900
27	21,900	4.53	991,700	970,900	959,300	1,930,200	950,100	980,100
28	16,200	3.07	498,100	980,100	443,600	1,423,100	950,100	473,000

表7 大納言需給推算

(単位：俵)

年産	作付面積	单収	生産量	前年度繰越	商品化	期首供給量	年間消費量	次期繰越(見込)
26	2,675	4.11	110,000	54,700	97,000	151,700	84,400	67,300
27	1,394	3.81	53,100	67,300	50,900	118,200	80,000	38,200
28	1,488	2.90	42,400	38,200	38,200	76,400	72,000	4,400

表8 大手亡需給推算

(単位：俵)

年産	作付面積	单収	生産量	前年度繰越	商品化	期首供給量	年間消費量	次期繰越(見込)
26	2,240	4.93	110,500	58,200	103,700	161,900	80,600	81,300
27	2,720	5.15	140,000	81,300	134,200	215,500	81,400	134,100
28	1,190	3.10	36,300	134,100	28,300	162,400	81,400	81,000

保、拡大を図る必要があります。大納言につきましては、作付けの抑制により適正な在庫水準と見られていましたが、実際は供給量の不足が発生している状況にあり、計画的な生産を進める必要があります。

◇手亡 (表8 参照)

手亡につきましても、2年続けての豊作で在庫過多の状況と価格の低迷を招いたことで、全道で大幅に面積を減らすことになりましたが、相場はさほど回復していないのが現状です。当JAでは、株御座候と縄手亡の契約栽培が長く続いておりますが、契約栽培は、在庫に余裕のない状況が続いておりますので、今後も必要とされる数量を、必要とされる品種品質で安定供給を継続していくよう、引き続き、皆様方のご協力を宜しくお願いいたします。

◇赤系金時 (表9 参照)

JA赤系金時 (表9 参照) 作付けの回復と豊作により、消費量が回復傾向にあります。たが、28年は十勝全体で大きく被災を受けたことと、供給量が大幅に減少したことと、供給量が回復傾向にあります。

表9 赤系金時需給推算

(単位：俵)

年産	作付面積	単収	生産量	前年度繰越	商品化	期首供給量	年間消費量	次期繰越(見込)
26	5,550	3.39	188,200	98,500	172,300	270,800	166,000	104,800
27	6,078	4.03	244,800	104,800	228,000	332,800	173,700	159,100
28	5,970	2.00	118,600	159,100	78,200	237,300	173,700	63,600

表10 光黒大豆需給推算

(単位：俵)

年産	作付面積	単収	生産量	前年度繰越	商品化	期首供給量	年間消費量	次期繰越(見込)
26	2,266	4.12	93,300	102,200	82,800	185,000	107,700	77,300
27	2,225	3.64	80,900	77,300	77,200	154,500	119,300	35,200
28	2,472	3.40	83,100	35,200	79,200	114,400	107,700	6,700

子不足により、27年産を種子に向かうこととなつたことから、製品供給は逼迫した環境となつています。消費量の向上に繋がる安定した作付けが必要です。

◇福白金時

(株)虎屋との契約栽培品種ですが、現在、在庫が十分に確保されているため、28年産は種子優先とさせて頂き、(株)虎屋への供給はありません。年間使用数量が限られていることから、需給バランスを保つのが難しく、29年産も作付け抑制を継続する計画であります。

（表10参照）
◇黒大豆
（表10参照）
あります。
ある中、28年産では11月の降雪により上川地区で収

生したことと、供給不足の環境になつてあります。消費量の向上に繋がる安定した作付けが必要です。

◇国産大豆

国産大豆は需給が緩和して価格帶も落ち着いてきましたが、需要の回復は低調となっています。28年産の生産計画は201千トンで、前年繰越とあわせた供給量は255千トン。需要については、更に価格が落ち着くものと思われますが、さほど増加につながらず前年並みの180千トンと予測されており、次年度繰越は75千トンと適正水準を大きく上回る状況と見込まれています。29年産から数量拡大がなりそうですが、今後も供給量は増加する見込みであることから、より一層の需要の拡大を図ることが急務な状況です。



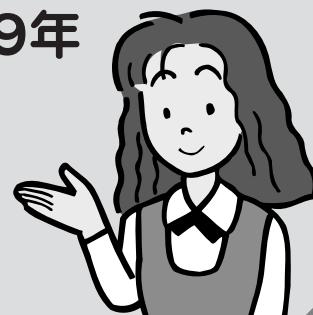
穫不能となつた圃場が多く発生したことと、供給不足の環境になつてあります。皮切れの発生が多い年が続き、販売に苦戦していることから、今後も収穫期の水分測定等の対策を継続していきます。

お知らせ

宮農計画書提出期限について

宮農計画書の提出期限は平成29年1月末となっております。

期日までに提出頂きますよう、よろしくお願ひ致します。



コンプライアンス研修会開催

安全運転研修も同時開催

12月1日（木）農協大会議室において、コンプライアンス研修及び安全運転研修を全職員対象に、業務終了後に開催致しました。

コンプライアンス（法令等遵守）は、たった一人の職員でもコンプライアンス違反をすることで、一瞬にしてJAへの信頼が揺らぐことに繋がってしまうため、全職員が理解・実践されなければなりません。

（1）コンプライアンス研修

講師／中央会帯広支所 村井主幹

今回の研修では、個人情報保護法違反の発生状況・発生原因・具体的な対策について、情報セキュリティ対策について、独占禁止法の概要と違反事例について、風通しの良い活力ある職場づくりについて研修しました。

コンプライアンスでは、不祥事を起こしてしまうには、3つの要因があり、「不正を働く動機づけ（お金がない）」、「不正を働く機会（ばれない）」、「誠実性の欠如（しかたがない）」この機会を与えないためには、風通しの良い職場環境を作り上げることが重要だと研修し、職員間の信頼関係を築くためのコミュニケーションが重要であることを再認識いたしました。又、活力ある職場づくりの事例として、「ネットトヨタ南国」のDVDを視聴し、ES重視の経営がお客様の満足に繋がり、働き甲斐を感じる職場に繋がることを研修しました。

情報セキュリティは、組合員・利用者等の信頼関係の強化と、安心とサービスを提供するために、組合内の情報等のセキュリティの確保と改善に努めることが当組合の社会的責任です。そのために、年2回情報セキュリティ自主点検を行っています。研修会では、情報取扱についての理解度を深めセキュリティの改善に努めました。

（2）交通安全運転研修会

講師／池田支所 三好課長

今回の研修では、職員の安全運転に対する啓発、安全意識の向上を目的に開催しました。

交通事故の発生状況、交通違反の基礎知識を研修し職員の交通安全の意識を高め、凍結路面でのスリップ事故防止、飲酒運転の根絶に努めてまいります。
(記事・管理部長 花本 敦)



中正記念堂での集合写真



部会長会視察研修報告

11月26日（土）～29日（火）の3泊4日で部会長会視察研修を実施し、部会長7名の参加のもと台湾（台北）を視察してきましたので、ご報告いたします。

11月27日（日） 台北SOGO

台北SOGO食品売り場を視察、SOGO食品売り場の入口では、日本産のお米フェアーがたまたま開催されていて、試食販売が行われていました。道産米（ななつぼし・ゆめぴりか等）を、深川市から來た店員が販売していました。売場に並んでいた野菜の中には、北海道産の産地名が入った人参、長芋、芋など数多くあり、よつ葉の牛乳も販売されていました。一般食品、菓子、飲料なども日本の製品が数多く陳列されていて、台湾の店ではなく、日本のSOGOを視察しているように感じ、日本製品の多さに参加者達は驚いていました。



チーズの貯蔵施設を見学

管理部 部長 花 本 敦

11月26日（土）～29日（火）

台北からバスで南西に1時間半、苗栗縣竹南大鎮にある四方鮮乳酪故事館（生乳生産ライン工場）を視察しました。四方鮮乳では300頭を擁する牧場を所有し、レストラン経営、ピザの調理体験、子牛との触れ合い体験などを行っています。

11月28日（月）

四方鮮乳酪故事館

台北からバスで南西に1時間半、苗栗縣竹南大鎮にある四方鮮乳酪故事館（生乳生産ライン工場）を視察しました。四方鮮乳では300頭を擁する牧場を所有し、レストラン経営、ピザの調理体験、子牛との触れ合い体験などを行っています。

四方鮮乳酪故事館では、DVD



圃場にて有機栽培の説明を受けました

による会社説明を受け、工場見学を行いました。工場内は20℃、集乳（自社牧場）↓清浄↓雑菌（90度による雑菌）↓均質（乳脂肪を細かい粒子にし乳脂肪が表面に浮かないように生乳の均一化）↓充填（自動生乳詰作業）↓検査↓箱詰め↓梱包↓冷蔵↓出荷までの作業を見学。梱包された牛乳は直ぐ冷蔵され、出荷されていました。出荷先は市内の高級スーパー、会員制の主婦組織、有機サークルなどが主で、自社のトラックで店舗、スーパー、自宅に届けられています。

碧蘿村有機農場視察 11月28日（月）

桃園縣大溪鎮にある有機農園碧

蘿村有機農場を視察しました。碧蘿村有機農場では20年前から有機野菜栽培に取組んでいました。現在、台湾では食の安全に対する意識が高まり、自然で安心な「オーガニックフード」が広がりを見せているとのことです。レストランでは有機農場の食材を使用するなど、自然で健康的な料理をアピールすることにより有機野菜の需要は伸び、消費者は10年前には100万人だったが、現在は200万人まで増えているとのことでした。

有機肥料は、果実の残り、野菜のくず、お茶、キノコを発酵させ作つていて、時間をかけ作つてるので、土壌細菌がなく、栄養価の高い肥料が出来るそうです。畑の作業は手作業で、除草・収穫作業に時間がかかり大変な作業となり、特に今年は台風の被害を

牛乳は、台湾民政府機関から承認された全国基準の品質保証シールを貼る、自社牧場で牛乳の生産品質保証（無添加）、衛生（機械化）、乳脂肪3・0以上3・8以下と品質へのこだわりなど、消費者の信頼を得ているのが感じられました。

また、生乳、アイス、乳飲料などを美味しく試食させていただきました。



人参の選別作業

研修を終えて

4日間、参加者8名が、何事もなく無事、元気に全ての研修行程を終えることができました。参加了部会長の皆様、大変ご苦労様でした。また、視察地が台湾だけとなり、慌ただしい中でも充実した研修となりました。



有機栽培のドラゴンフルーツを試食

受け、何回も播き直しを行つたそうです。

その他に観光として、故宮博物院・忠烈祠・中正記念堂・101展望台・龍山寺を視察しました。

青年部

第41回 青年部十勝大会

11月25日、ホテル日航ノースランド帯広を会場とし、十勝のJA青年部員が集まる第41回青年部十勝大会が行われました。大会では、青年の主張や農業の魅力を発信する1分間CMコンテスト等があり、各青年部での考え方の違いや、取り組み方への姿勢など、今後の自分達の青年部活動の参考になることがとてもたくさんありました。



審査員特別賞を受賞した八田祐基さん

閉会後の懇親会では、数多くの盟友と交流している中、各青年部の代表者によるアームレスリング大会と、農業への情熱をアピールする純農B〇Yコンテストが行われました。純農B〇Yコンテストでは当青年部代表として出場した八田祐基さんが見事審査員特別賞を受賞しました。

各JAの青年部員との交流や活動を知ることができる機会はあまりないので、貴重な1日となりました。このような経験を生かして今後の青年部活動、自分自身の農業経営に生かしていきたいです。

(記事・青年部員 守内 駿)



大会の様子

青年部

第65回 全道JA青年部大会

12月1日、2日に行われた第65回全道JA青年部大会に部長・副部長を含め4名で主席してきました。

2日間行われた日程の中でも、分科

会での株式会社ウェザーニューズの木ノ内浩二さんによる、「災害多発の今年の気象と今後の傾向について」という講演はとても印象に残るものでした。講義を聴いて、農業は天気に左右され毎年同じではなく、その時々に適した管理作業と予測する力と長年の経験が必要のことを改めて実感し、さらに、数年先の営農計画も考えて行かなければと思いました。最後の質問の場では、夏の天気は予想しづらく特に6～7月下旬にかけては天気予報を信用しない方がいいと言われた時に、「大事な時期ではないか!!」と思ったことを思い出します。

全体慰労会では、普段なかなか話す機会のない青年部員と交流をし、変わった作物や管理作業、機械、最近飲んだ次の日の仕事が辛くなったなどのたわいも無い話しても交えながら交流を深めました。

私はこの2日間を通して、全道の部員のこれから農業への意識や向上心の高さを感じ良い刺激となりました。この刺激をこれからより良い営農や青年部活動につなげていきたいです。

(記事・青年部員 穂田正也)

畜産課

酪農振興会視察研修

酪農振興会では、11月22日から23日にかけ、今年度2回目となる視察研修を開催致しました。

江別市にある2つの大型法人を訪問、その中でも株式会社Kalm角山牧場は、道内で最も多い8台の搾乳ロボットを導入し、年間5,600tを目指し、平成28年から本格的に稼働、最新の機械と人間の管理により、安定した乳量、事故軽減を図っております。

参加者は、機械へ興味を示しながらも、法人ならではの苦労話も聞き、大変有意義な研修となりました。

写真中央が株式会社Kalm角山牧場の川口谷さん



(記事・畜産課長 梶木和也)

熊本、函館、池田若手生産者の集合写真



畜産課

あか牛道内 若手生産者視察研修

11月30日から12月2日にかけ、あか牛若手生産者（池田7名、函館5名）の皆様と、熊本県の牧場視察と交流会へ参加いたしました。

あか牛の本場熊本のレベルの高さや意識の差に圧倒され、刺激を受ける良い機会となりました。また、このような交流会は今回が初めてということで、函館・熊本の若手生産者とのつながりができ、有意義な研修となりました。参加者の皆様お疲れ様でした。

(記事・畜産部畜産課 長谷川彰大)

このように、地域コミュニティと総合事業を営む協同組合とは密接な関係があり、地域には一つの総合事業を営む産業組合が存在し、地域コミュニティの維持・発展にも大きな役割を果たすことになりました。レイドロー報告では日本の総合協同組合が取り上げられ、地域コミュニティに根を張った事業展開を進めている点が評価されています。

(北海道報徳社 報徳生活読本より)

日本の総合協同組合



生産資材課より

ホクレン肥料特別対策の 実施について

日頃より、当組合事業推進に当たり、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ホクレンでは昨年の異常気象に伴い、今後の営農を支援するための「特別対策」を下記内容にて実施いたしました（H28単年度対策）。尚、今回の「特別対策」は平成27肥料年度（平成27年7月～28年6月）の系統化学肥料のご利用額に対してお支払いとなります。

購買事業の基本となる予約購買は、みなさんの予約申込での利用がホクレンに結集し、大きな需要となることで価格の引き下げが可能となります。同じく生産資材課における「肥料早期予約取りまとめ」のお申し込みが、みなさんの農業所得増加に向けたコスト低減への取り組みに結びついて参りますので、系統への予約結集についてより一層のご理解、ご協力をいただけますようよろしくお願い申し上げます。



○当農協への対策費 22,545,656円（税込み）

※H27肥早期予約取りまとめを主に、化学肥料引き取り実績額に基づきお支払いとなります。

※支払日 平成28年12月21日

○ホクレン特別対策の内容

平成28年産の各農作物の生育経過は、初夏以降日照不足等の天候不順による作柄の悪化が懸念されておりましたが、8月以降、4回にわたる台風の災害に見舞われ、農家経営に大きな打撃を与えました。このような中、次年度以降の営農意欲の低下が懸念されることから、今後の営農を支援するためホクレンとして特別対策を実施します。

対策額 全道 約30億円

金融共済課より

え!?こんなに増えるの? JAオススメの資産形成プラン!

養老生命共済 1型

30年後の1,000万円で豊かな老後を楽しみませんか?

【契約例】30歳 男性 共済期間 30年 満期共済金 1,000万円 年払(口座振替扱)

293,650円 × 30年 = 8,809,500円

1,190,500円も増えちゃうんです!

30年後の
満期共済金 **10,000,000円**

保障と貯蓄を兼ね備えたJAの養老生命共済[1型]

- 共済期間、死亡・死亡・所定の第1級後遺障害の状態・所定の介護状態になった場合には1,000万円の保障!
- 万一の保障や節税効果を備えていながら、満期時には満期共済金がもらえます!
- 未来の自分のために、安心・確実・かしこい積立をはじめてみませんか?

加入年齢 性別	共済期間	年払掛金	累計掛金	基 額
				(満期共済金 - 累計掛金)
30歳 男	30年	293,650円	8,809,500円	1,190,500円
35歳 男	30年	300,030円	9,000,900円	999,100円
40歳 男	25年	370,830円	9,270,750円	729,250円
45歳 男	20年	477,150円	9,543,000円	457,000円
50歳 男	20年	494,430円	9,888,600円	111,400円

加入年齢 性別	共済期間	年払掛金	累計掛金	基 額
				(満期共済金 - 累計掛金)
30歳 女	30年	287,710円	8,631,300円	1,368,700円
35歳 女	30年	290,880円	8,726,400円	1,273,600円
40歳 女	25年	359,480円	8,987,000円	1,013,000円
45歳 女	20年	462,590円	9,251,800円	748,200円
50歳 女	20年	470,750円	9,415,000円	585,000円

- 満期時に被保険者が生存されているとき、満期共済金として1,000万円をお支払いします。
- 年払掛金は生命保険料控除により、一定額の所持控除を受けられます。
- 払込掛金と満期共済金の差額は一時預金として所持預金・住民税の対象となります。※平成28年1月現在の面合に基づき記載しています。
- 途中で解約されますと解約退保金が払込掛金を下回ることがあります。また、以後の保険はないになります。
- この資料は概要を説明したものです。ご検討にあたっては「重要な事項説明書(契約概要)」を必ずご覧ください。
- ご質問に際には、「重要な事項説明書(往診営業情報)」および「ご契約のしおり・約款」を必ずご覧ください。
- このチラシの有効期限は平成29年3月31日までとなります。

お問い合わせは、JA十勝池田町

本所 015-572-3131

支所 015-572-3132

JA共済
16013506015

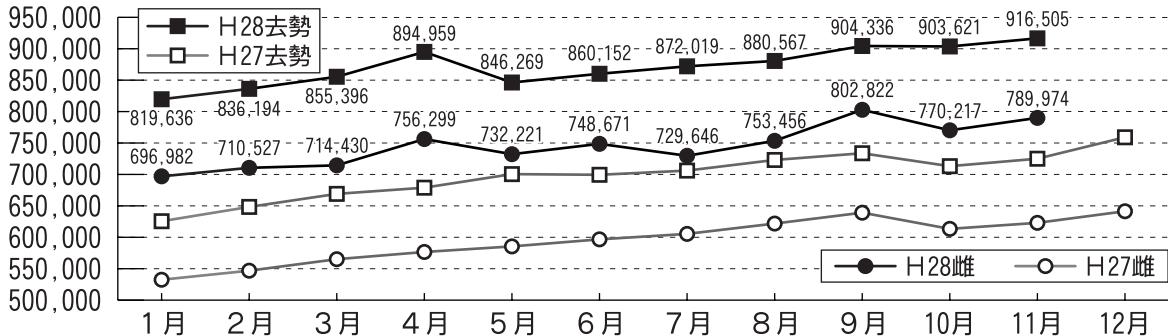


畜産部通信

畜産部
畜産課

(円)

平成27~28年ホクレン十勝家畜市場黒毛素牛平均価格(十勝)



11月黒毛素牛出荷区分別成績

【金額(円)】

		取引頭数	平均価格(税込)	参加率・認定率
去勢	+ 池田	和牛素牛	606	916,505
		マニュアル参加牛	397	926,999
		マニュアル認定牛	65	974,941
雌	+ 池田	和牛素牛	41	905,725
		マニュアル参加牛	40	903,501
		マニュアル認定牛	10	948,456
+ 池田	十勝	和牛素牛	418	789,974
		マニュアル参加牛	300	788,591
		マニュアル認定牛	31	868,041
+ 池田	十勝	和牛素牛	27	783,240
		マニュアル参加牛	26	782,626
		マニュアル認定牛	1	778,680

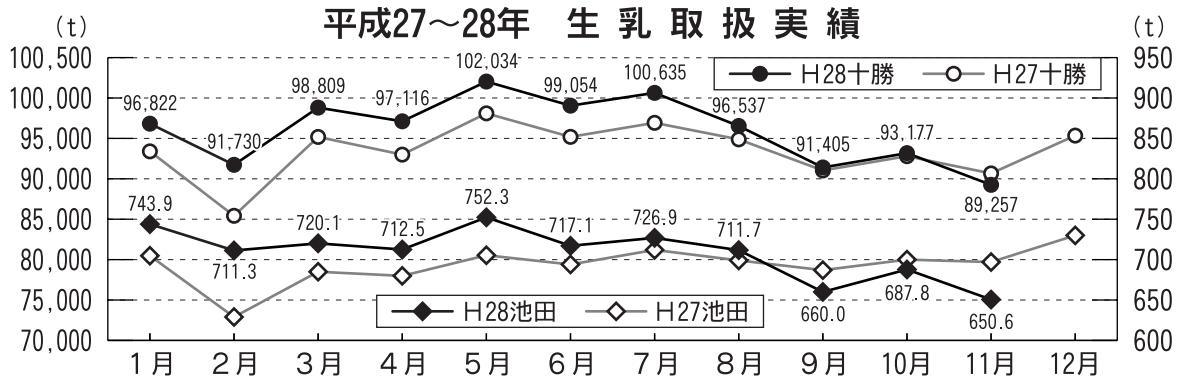
11月ホクレン十勝枝肉市場

【金額(円)】

開催日	区分	取引頭数	平均価格(税込)
5日	黒毛去勢	A-5	2,587
		A-4	2,514
		A-3	2,338
26日	黒毛メス	A-5	2,594
		A-4	2,508
		A-3	2,337
F1去勢	F1去勢	B-3	1,431
		B-2	1,304
		B-3	1,418
F1メス	F1メス	B-2	1,241



平成27~28年 生乳取扱実績



11月ホクレン十勝乳牛市場

【金額(円)】

開催日	区分	取引頭数	平均価格(税込)
2日	乳牛育成	456	522,021
8日	乳牛初妊	451	837,989
	乳牛経産	106	469,138
29日	乳牛初妊	612	891,810
	乳牛経産	108	432,210

11月十勝中央家畜市場

【金額(円)】

区分	平均価格(税込)
乳牛オス初生	101,550
F1オス初生	292,971
F1メス初生	193,215
廃用牛	162,240



様舞地区
穂 田 正 也 さん
(29歳)

Vol.31

未来人

Mirai Bito

プロフィール

妻・亜弥さん、長男・空芽くん、父・裕幸さん、母・康子さん、祖母・好美子さん、の6人家族で畑作を営む。

池田高校を卒業後、専修大学北海道短期大学に進学したのち就農する。今年で就農9年目。

正也さんの家では40町程の作付をし、小麦・小豆・大豆・ビート・ダイオウ・アスパラ・ロコーン・馬鈴薯など、数多くの作物を育てている。アスパラを作付し始めたのは6年前くらいから。家の収入を増やすために何か新しい作物を作付しようと考へアスパラの作付を開始。作付当初は、「アスパラは作付してから2年間は収穫できない」と言うことにとても驚いたと話す。2年間は根を太くする時期で、3年目から収穫可能になり、4年目からは良い物が取れるようになるとのこと。アスパラの収穫はゴール

業は始めようと思つてもなかなか出来る仕事ではない。自分には農業を始める環境があつたので、高校の時には就農する事を決意した。」と話してくれたのは、今年度アスパラ部会の会長を務める穂田正也さん。

農

業は始めようと思つてもなかなか出来る仕事ではない。自分には農業を始める環境があつたので、高校の時には就農する事を決意した。」と話してくれたのは、今年度アスパラ部会の会長を務める穂田正也さん。

正也さんの家では40町程の作付をし、小麦・小豆・大豆・ビート・ダイオウ・アスパラ・ロコーン・馬鈴薯など、数多くの作物を育てている。アスパラを作付し始めたのは6年前くらいから。家の収入を増やすために何か新しい作物を作付しようと考えアスパラの作付を開始。作付当初は、「アスパラは作付してから2年間は収穫できない」と言うことにとても驚いたと話す。2年間は根を太くする時期で、3年目から収穫可能になり、4年目からは良い物が取れるようになるとのこと。アスパラの収穫はゴール

池田町のアスパラの魅力について聞くと、「スーパー等で売っている輸入品や道外品のアスパラと違い太さ・美しさ・甘さが違う。販売期間も限定されていてレア感もあるので、ギフトなどにもつけてこいです！是非！」

「デングウイーク明けから、6月の中旬まで毎日続く」と言う。「収穫の時期は除草剤が使えないのでも、草処理が大変です。」と苦笑い。

妻・亜弥さんは友達の紹介で知り合い、23歳の時に結婚。現在は5才となる長男・空芽くんと良く外で雪遊びをするという。結婚して変わったことを聞くと、「仕事が終わって家に帰るのがすごく楽しくなりました。」と笑顔を見せる。



青年部には就農1年目に入部し、過去には支部長を務めた経験がある。「大学を卒業してからすぐ就農したので、社会を良く知っていない。青年部の活動は社会について学ぶ良い機会となっている。」最後に今年度の意気込みを聞くと、「今年失敗したと思ったことを改善する事。去年よりも今年が良くなるように努力していく」と話してくれた。

理事会の動き

第10回 <平成28年12月26日>

★ 報告事項 ★

- (1) 組合員の加入及び脱退について
- (2) 豆の集荷状況について
- (3) 組合財務の現況について
- (4) 余裕金運用状況報告並びに保有目的区分について
- (5) 11月末基準仮決算について
- (6) コンプライアンスプログラムの取組状況について
- (7) 内部審査及び内部監査報告について
- (8) コンプライアンス事故報告について
- (9) 反社会的勢力排除対応管理先対応状況報告について
- (10) 平成28年度目標管理制度の各部目標及び中間面接結果について
- (11) 労働基準監督署の調査について

★ 議 案 ★

- (1) 組合員の相続による出資金持分譲渡並びに新規加入承認願いについて
- (2) 組合員の資格変動並びに出資金持分減口承認願いについて
- (3) 組合員の出資金持分譲渡承認願いについて
- (4) 自治監査報告書について
- (5) 公用印管理規程の一部改正について
- (6) 人事規程の一部改正について
- (7) 給与規程の一部改正について
- (8) 「理事の構成」に係る改正農協法への対応方針（案）について
- (9) 役員選任実施要領の廃止に伴う役員推薦会議運営要領及び役員選任事務取扱要領の制定について
- (10) 役員選任実施日程について
- (11) 役員推薦委員の選任について

★ 協 議 案 ★

- (1) 総会までの行事日程について
- (2) 平成29年度重点項目（案）について
- (3) 平成29年度固定資産取得計画（案）について
- (4) 冬期地区懇談会の開催について
- (5) 年末組勘整理の見込みについて

今月の1枚



こだま会忘年会を開催

11月27日（日）に、こだま会忘年会を笠井ホテルにて開催しました。観劇を見たり、バイキングで食事をして、皆さんで楽しみました。

新年明けましておめでとうござります。年末年始、皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年は多くの組合員様・地域の皆様に広報記事の取材をさせていただきました。取材を快く引き受けた頂き、誠にありがとうございました。今年も皆様に楽しんで読んで頂けるような広報を目指し頑張って参りますので、どうぞよろしくお願ひ致します。平成29年は病気や事故もなく、豊穣の年となります事をご祈念申し上げます。（杉山）

編
集
後
記